

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000926		
法人名	株式会社ナショナルスタッフセンター		
事業所名	グループホーム松風(1階ユニット)		
所在地	北見市とん田東町450番地7		
自己評価作成日	令和3年2月3日	評価結果市町村受理日	令和3年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

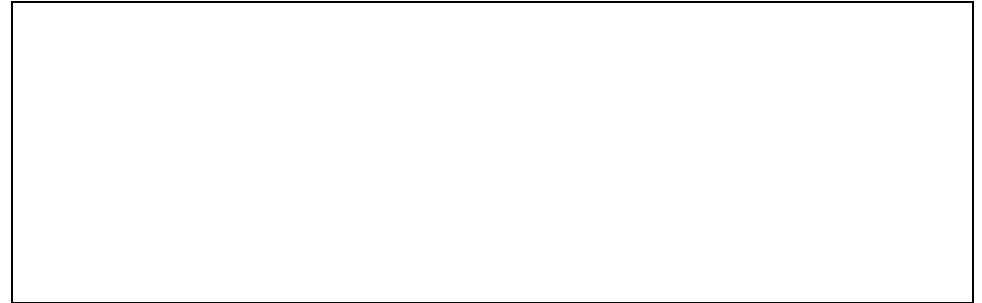
理念を基本に、スタッフ一同日々のケアに取り組んでいます。入居者様が、毎日変わりなく、安心して暮らせる生活の場となるように努めています。優しい支援を提供するため、その場その場でミニカンファレンスにて、検証しながら入居者様のお手伝いをさせて頂いています。美味しい食事となるよう、スタッフが日々調理師提供させて頂いています。季節の催しや行事・北交ハイヤーカラオケ同好会会員の皆様の慰問など御協力頂いています。又、各ユニット毎、共有スペースには、個人の作品・誕生会等の写真や、穏やかな雰囲気の生活空間作りに努めています。入居者様・御家族様に安心・信頼を頂ける支援の提供を、スタッフ一同心掛けています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL mhhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=0175000926-00&Se

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年2月24日



V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「四季のある自由な生活快適」はコロナ感染防止のため、例年行っている施設外での行事は中止になってしまった。それでも施設内で季節ごとの行事や楽しみを行っている。「優しい介護、おいしい食事」は新しい職員も男性職員も増えたが、理念を共有し手作り料理を栄養士さんの献立の元、作り対応、気持ちに寄り添う介護をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染を心配し地域の方や御家族の訪問、事業所などの研修もほぼないが電話などで情報のやり取りは行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	R2年の前半は学生の受け入れも出来ていた。御家族や入居者様の以前住んでいた近所の方の訪問も受け入れていたので認知症の人の理解や支援の方法を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年度の初めは運営推進会議ができない時もあったが、後半は開催の案内を出し行おうとしているが、コロナの感染を御家族や地域の方が心配され遠慮され、欠席される方も多かった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、生活保護課等と連絡を密にして協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会やマニュアルを元に3ヶ月に一度、身体拘束委員会を実施し、職員の意識の向上を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の高齢になり皮膚が薄くなり内出血がしやすいことを虐待と勘違いされることの無いよう、車椅子のフットレスにカバーをかける、スプーンを持つように援助する時、手に触れる時など最新の注意をしている。コロナで施設外の研修はないが、虐待防止等の学びは1・2階合同会議、カンファレンス等で行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前相談される御家族もありましたが、最近はないが、スタッフも新しいメンバーが増えたので回覧などを行い制度について学び活用が必要な方には支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や契約内容の変更があった時は施設長や管理者が御家族に内容を説明し理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の来訪時など希望や意見等あった場合は施設長や管理者に報告し、職員の間でも内容を周知している。希望に沿った援助をしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1・2階合同会議(月一回)、職員の意見や提案を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務に必要な資格や研修の費用を受ける事が出来るので、資格習得し向上心を持てる職場環境になっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年はコロナの影響で研修を受ける機会がなかったが、拘束委員会を定期的に開催し知識を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防のため勉強会が開催されていないが、電話等でサービスの質向上のため連絡や交流をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入居初期はほぼ帰りたいという入居者様の意向のみと言う事が多いが、アセスメントや週間表などを作成し御本人の不安や要望を聞き取り関係を築き、ケアプランを立て援助している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	病院のソーシャルワーカー、担当看護師さんや担当のケアマネジャーに御家族と同席して頂き、うまく話せない御家族の困り事を聞き取り役立て、御家族の御本人へのサポート支援状況や家族関係を聞き配慮し、信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族が今までご本人の為と思い家で行ったことを施設サービスとして希望することが、御本人がまだ出来ることを阻害していたり、御本人の要望と異なる事も多い、アセスメントを行い必要な支援を見極めて他のサービス利用も含め、対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様はしてもらう事よりしてあげたいと思っている。お礼を言われると嬉しそうにされる。ほんの少しの手助けで出来ることも多い、支え合い同じ空間で共に暮らす関係に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の精神的負担の軽減、将来への不安を来訪時間取り、気持ちに寄り添い、御家族が来ると御本人が誰だか喜び嬉しそうにされていること、御家族の話をされていることを伝え関係が疎遠にならないようにしている。(年賀状や電話なども利用している)		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの感染が広まるまでは御本人の以前住んでいた御近所の方の面会もあった。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	茶の間ではスタッフも入り会話や昔話をして仲良くされているので、席にいない時は、病院かい、どうしたの、とか利用者様同士で気にされたり具合を聞いたりされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が切れたり病院に入院後亡くなったりされた入居者様の御家族から連絡があったり、その御家族から評判を聞いて入居申し込みがあることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訪看さんの訪問前日やケアプラン変更、カンファレンス、サービス担当者会議の前、御家族面会時、御家族と一緒にいる時、誕生日、日常の茶の間で過ごされている時など思いを聞き取りしている。御家族ともご本人の希望が叶うように話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の時、生活歴、職歴、生活習慣の情報提供を御家族やケアマネ、相談者から得ている。家族との連携も取れているので聞き取りしケアマネジメントに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント、モニタリング、月一度のサービス担当者会議前、各入居者様に担当者を決め、ケアプランの評価や御本人の状況、スタッフに共有把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの評価月、御家族御本人の意向の確認、月一回のサービス担当者会議には担当者からケアの問題や、より良いケア方法の提案など、又、スタッフ全員チームで提案、試しに援助し結果を申し送りして伝え介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	訪看さんの記録や生活記録の内容把握、現状の御本人の情報の共有を月一回サービス担当者会議で行って現状に合わない時は評価月に関係なくケアプランの変更作成をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外部のサービス、訪問理容や訪問看護のサービスを取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部からの慰問(カラオケ、御神輿)で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。今年度はコロナ感染予防のため、実現できなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	スタッフからの情報、ケアマネからの連絡表、訪看さんの記録用紙等、受診時に持参して頂き適切な医療を受けられるように対応している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護ステーションたんぼぼ看護師(木曜日)、火曜日、玉越病院訪問看護師(2名入居者の所に)来所。身体状態確認に適切なアドバイス指示を受け支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、又、施設での生活情報提供している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の体調、食事量を見て早い段階で家族と話し合いの場を設け説明し、終末期医療をしてくれる病院、御家族と施設職員で支援を進めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変マニュアルを作成している。職員は急変のある可能性がある時は、ほぼ必ず目を通し対応出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、火災訓練を行っていたが、今年度は自衛訓練の一度のみだったが、普段行っていなかった公用車を使用しての訓練や発電機の使用方法を実施、参加できなかった職員には回覧をした。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重しほこりやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望を傾聴し、思いを表出できるよう働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、その他施設の決まりは守っていただいているが、一人一人の過ごし方も尊重し生活を送っていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立されている方は自分で服を選び自由に着替えられている。一部援助が必要な方は職員と一緒にどの服が良いか選んでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いできる方に芋や卵の皮むき等をして頂いている。入居者様と職員が一緒にテーブルで食事をし、できる方には御自分の食器の下膳・洗い物をして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人にあった米飯量、副食量にし必要に応じて刻んで提供している。栄養が足りない方にはエンシュアを飲んで頂き、水分制限のある方は制限内になるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方、セッティング対応の方、うがいが出来ず飲んでしまう方には口腔ケアスポンジを使い介助など、毎食後援助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツやリハビリパンツを使用しトイレで排泄している。おむつ使用者はいない。排泄後の後始末や清拭の援助で清潔保持援助し、自立して排泄の支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きな粉牛乳や乳製品の援助、水分量の適切な援助、入居者様に合わせて援助している。廊下歩行運動もされている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	規則的な入浴ができるように入居者様の入浴スケジュールに沿って入ってもらう。受診や体調不良の時はずらして入浴してもらう。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況や疲労を見ながら、必要ならば声掛けし居室で臥床してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	御本人に処方になった薬の内容をスタッフで周知し医師の指示に従い、服薬援助し変化等確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の負担にならない範囲で洗濯物を畳んでもらったり、自分の食器を運んだり洗ったりしてもらい、計算問題、新聞の提供。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染を御家族も心配されているので施設外での行事は中止し、出かけることは少なくなっているが、今は安全を一番に考えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については家族管理なので所持し使っている人はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時は御家族へ電話し入居者本人に代わって話してもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じてもらえるよう茶の間の壁に、その時の季節に合った絵や飾り付けをし、楽しんで頂けるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者一人一人にあった居心地の良い居場所作りを工夫し、本人にあった過ごし方をして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族と相談し自宅で使用していたものや家具を居室に配置し、住み慣れた環境に近づけるよう、又、安心して生活できるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは本人にしてもらい、自立した生活ができるよう支援している。		